

団体名	高松大学						
事業名	留学生地域文化交流体験～歩き遍路とお接待で繋ぐおもてなしと感謝のころ～						
実施期間	2024年10月5日						
場 所	大窪寺、おへんろ交流サロン、長尾寺						
参加者数	外国人 留学生	日本人 学生	地域住民 (留学生以外の 外国人)	地域住民 (外国人除く。地域 のスタッフ含む)	申請団体 スタッフ	その他	合計
	9	3	6	13	6	4	41名

<実施内容>

逆打ち遍路をすると功德が3倍になるといわれている「うるう年」の本年、16年ぶりに留学生が歩き遍路を体験した。今回は日本人学生と卒業後も香川県で活躍している元留学生も参加し、また、「NPO法人遍路とおもてなしのネットワーク」にも協力していただいた。

実施に先立ち、講師を招いて勉強会を開き、参加学生がお遍路文化の歴史と参拝の作法、お接待のころとおもてなしの作法を学び、手書きのメッセージカードを添えたお接待用のお菓子セットを準備した。

10月5日（土）、先達さんに参拝の作法を教わりながら88番札所大窪寺を参拝し、87番札所長尾寺に向けて出発。先達さんから、行き倒れになったお遍路さんを地元住民が供養している遍路墓などの説明を聞き、お遍路文化の歴史を感じながら約15kmの遍路道を歩いた。花折峠越えて体力をかなり消耗したが、前山のおへんろ交流サロンで「おへんろつかさ うさぎの会」の人達から飲み物とお菓子、心のこもった手作り品のお接待を受け、元気を取り戻せた。出発前に本学からも、お遍路さんや観光客へのお接待として、お菓子セットをおへんろ交流サロンに贈呈。最後に87番札所長尾寺を参拝して、日帰りの逆打ち歩き遍路を終えた。

日帰りではあったが、約15kmの遍路道を自分の足で歩いたことで、先達さんや「NPO法人遍路とおもてなしのネットワーク」「おへんろつかさ うさぎの会」の人達に支えられてこの活動ができたことを実感し、彼らに対する感謝の気持ちが自然に湧いてきた。お遍路文化を肌で感じる事ができ、留学生だけでなく、日本人学生にとっても普段の大学生活では味わうことのできない貴重な体験が得られた。

<記録写真>



般若心境を唱える



お遍路路途中



協力団体と一緒に撮影

<参加者からのコメント>

陳 陽さん（中国）

中国では僧侶たちが国内を行脚して、人々のために祈る。日本の仏教は中国から伝わったので、大学で歩き遍路の活動をする聞いて、すぐに参加を決めた。15キロを歩くのはとても疲れたが、道中たくさん竹や川を見ながら友だちと互いに励まし合って歩いた。こんなに長い遍路道を歩き切った自分に驚いた。この体験を通じて、何事も続けることが大切だと感じた。この日のお遍路を通じて皆に幸運が訪れることを願っている。

劉 茂強さん（中国）

この活動に参加する前は、お遍路はただ歩くだけという印象があり、お遍路で心がつながるのかと疑問に思っていた。しかし、一緒に歩く留学生と話が盛り上がり、お接待で飲み物やお菓子をいただく時、自然と感謝の気持ちになって、心がつながれたと思った。また、先達さんやNPOの方々からお遍路について丁寧に教えていただき、自分で体験しないと得られない色々なことにも気づけた。

英語名称（英語版作成用）

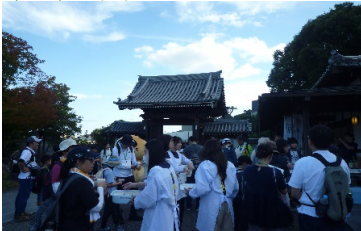
団体名	Takamatsu University
事業名	～Hospitality and gratitude connected through walking pilgrimages and hospitality～

団体名	高松大学						
事業名	留学生地域文化交流体験～歩き遍路とお接待で繋ぐおもてなしと感謝のころ～						
実施期間	2024年10月12日						
場 所	甲山寺						
参加者数	外国人 留学生	日本人 学生	地域住民 (留学生以外の 外国人)	地域住民 (外国人除く。地域 のスタッフ含む)	申請団体 スタッフ	その他	合計
	9	3	2	38	6	8	66名

<実施内容>

10月5日の歩き遍路体験に続き、留学生がお接待を体験した。今回も日本人学生と卒業後も香川県で活躍している元留学生が参加し、「NPO法人遍路とおもてなしのネットワーク」に協力していただいた。10月12日（土）、72番札所甲山寺で参拝客に飲み物とお菓子のお接待を行った。参拝を済ました人達に笑顔で声をかけながら飲み物とお菓子を渡したが、「留学生にお接待をしてもらえるとは」と喜んでもらえて、自然と会話が生まれた。また、大学の授業で四国遍路のことを知り、ポーランドから歩き遍路をしにきたという外国人のお遍路さんに出会い、お接待をしながら、日本語で話したり写真を撮ったりして、楽しい国際交流ができた。「親子お遍路ウォーキング」の参加者にはメッセージカードを添えたお菓子セットと飲み物でお接待をして交流した。留学生達が母国語で書いたメッセージカードが好評で、自然と会話が弾んだ。参加者代表の子どもから感謝状をもらい、全員で彼らに励ましの言葉をかけて出発を見送った。100名を超える参拝客へのお接待を終えた後、感謝の気持ちを込めて全員で境内の掃除を行い、これから甲山寺を訪れるお遍路さんや観光客へのお接待として、お菓子セットを住職にお渡しした。歩き遍路をしてお接待の有難味を実感した後のお接待体験だったので、お接待の意義を十分理解したうえで臨むことができた。お接待を通じて大勢のお遍路さんとの交流が生まれ、お接待文化が持つ「おもてなしと感謝のころ」を体感できたことは、香川県で学ぶ留学生・日本人学生にとって、普段の大学生活は得られない貴重な学びの機会であった。

<記録写真>



親子お遍路ウォーキングお接待



甲山寺清掃



親子お遍路ウォーキング参加者と撮影

<参加者からのコメント>

ファム ティ トゥさん（ベトナム）	蓮澤 元希さん（日本）
最初は緊張して、どうやって知らない人に声をかけるのか心配したが、実際にやってみるとけっこうおもしろくて、お茶を出したり、お菓子を渡したりする中で、相手の反応を見ながらコミュニケーションをとる楽しさを実感した。お接待を通じて、相手との距離が縮まり、温かい雰囲気が生まれるのが印象的だった。特に相手がリラックスして笑顔を見せてくれた瞬間が何よりうれしかった。この経験を通じて、人とのつながりの大切さや感謝の気持ちを伝えることの重要性を深く感じた。	1200年を超えて継承される四国遍路、今回はお接待という形でその歴史に触れた。金木犀の薫り漂う甲山寺でお遍路さんを迎え入れる準備に取り掛かった。そして15時過ぎにいらっしゃったのは、大勢の幼気なお子さんとそのご家族の皆さん。険しい道を超えていらしたはずなのに、疲れを全く感じさせない無邪気な笑顔にこちらが癒された。また、お接待の最中には、初めてお会いしたのに以前から知っているような不思議な感覚があることに気づいた。それはとても温かなもので、皆さんとの繋がりを直に感じた。これが四国遍路の神髄なのだろうか。またどこかでお会いできるのを楽しみにしている。

英語名称（英語版作成用）

団体名	Takamatsu University
事業名	～Hospitality and gratitude connected through walking pilgrimages and hospitality～